

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2021 成果報告レポート

助成番号 21-1-5

プロジェクト名 コロナ禍での長期入院中の子どもが笑顔になる、
オンライン併用あそびプログラムの開発と試行
団体名 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
所在地 千葉県
助成額 182万円
設立年 1988年
URL <https://chiba.gekijou.org/>



（団体について）

「千葉県内の子どもの発達権を保障する生活文化環境づくり」をミッションに活動している子ども・文化・地域を専門分野とするNPOです。子ども専用の「チャイルドライン千葉」と養育者のための「ママパパラインちば」の傾聴活動でリアルな声に寄り添う中で、自分に自信を持てず様々な不安を抱える子どもたちが多くなっていることが報告されています。芸術文化や芸術家とふれあうことによって、自由に自己表現する楽しさを体験し笑顔になり、互いに認め合う中で自己肯定感が高まると感じています。

2008年から千葉県小児科医会はじめ病院関係者、千葉県行政の医療部門関係者などから情報提供を受けつつ「病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業」を実施しています。病棟保育士さんと交流を深めながら、プロのアーティスト、地域の子どもの文化に経験のある講師と共に子どもたちが安心して仲間と一緒に笑ったり、夢中になって自由に作って遊ぶワークショップを続けてきました。

現在では、県内児童相談所、乳児院、児童福祉施設、学校等の子どもたちにもドキドキわくわくする芸術文化体験を届けています。また、2020年からは、アートを活用した乳幼児と親の子育て支援を行政と連携して実施するなど、笑顔を届ける活動は広がっています。

（助成による活動と成果）

毎年続けてきた長期入院の子どもたちへ笑顔を届ける事業は、2020年度からの新型コロナウイルス感染防止のために、初めて、予定の8病院のうち1病院での実施に留まりました。タケダ・ウェルビーイング・プログラム2021の助成を受けて、新しいかたちを工夫し、子どもたち、付き添う保護者、きょうだいの皆さんたちがホッとして笑顔になるプログラムを届けたいと願い、これまでの活動で培ってきた地域の指導者による工作やプロの芸術文化を生かして、動画やオンラインの活用に挑戦することができました。

自由を制限された子どもたちに、3回にわたってカラフルな工作キット、あそびかた動画のパンフレットやDVDを贈ることができました。工作キットや動画の作成には、地域の団体の協力も得ることができました。

配布内容は、以下の通りです。

- YouTube全動画を視聴できるQRコード付きの「あそびの動画のパンフレット」とDVD。
- 乳幼児向けに手遊びやわらべ歌の「ふれあいあそび」10種類の楽譜や遊び方シート。
うち7種類は動画のQRコード付き。保育士用に一覧できるファイルにして配布。
- 「工作キット」10種類。うち6種類は作り方シートに動画QRコード付き。パフォーマーによる

動画付き工作キット 2 種類含む。

- ・プロのパフォーマーによる「人形劇」「パネルシアター・歌あそび」2 作品
- これらを 5 か所の病院に合計 2,579 キットを配布できました。

病院からの感想では、キットはどれも好評で、「普段と違う材料のワクワクさがあり、ゲームやビデオで過ごす子どもたちにとって笑顔のきっかけになった」、「子どもと職員との話題のきっかけにもなった」ということです。動画での工作解説は、細かい説明や、遊び方、アレンジも紹介でき、わかりやすく、繰り返し活用されました。

プロのパフォーマンスの動画は、芸術性も高く、一瞬で心が和み、コロナで誰とも会えない子どもたちにとって、プロの芸術に触れる貴重な時間となり、動画ではありますが、プロと出会う機会を作れたのは、4 年ぶりでした。何度も病院と検討し、実現した芸術家との歌のオンラインコンサート交流は、病院にとっても挑戦でしたが、「こんな時だからこそ、大事なことである」と共感を得られ、お誕生日の子どものお祝いのイベントにも位置付けて実施することが出来ました。一度実施することで、気持ちが軽くなり、他の活動へと発展できそうと感想が寄せられました。

通常は、各病院に年に一回の訪問で 3 種類くらいの工作で交流していましたが、今回は、10 種類の工作キットを届けた後、病棟で数回に分けて工作あそびの時間を設け、年間を通してのお楽しみの時間として利用して頂けたようです。今回の試行は、工作キットの材料や作り方シートについて率直で具体的な意見が寄せられ、当団体と病院とで共に改善しながら進められたことで、より共感性が高くなりました。

（残された課題、新たな課題）

この一年で、病院内のオンラインシステムの改善も進んできたようですが、Wi-Fi 環境を扱う職員がいないと、実施に踏み切れないところがありました。オンラインであっても一人一人に対応してリアル感の出せるようにより一層工夫して変わっていくことが大事だと思いました。

組織としては、助成終了後も感染予防対策をした上で、子どもたち、親子の皆さんが楽しく笑顔になり、病院スタッフに対しては、なかなか手に入らない材料、バラエティに富んだあそびを提供すること、子どもたちにオンライン動画視聴の提供をお願いするなど、途切れることなく続けていき、子どもの情緒的ウェルビーイングの向上に寄与したいと強く思いました。社会的な発信は今後の課題ではありますが、コロナ禍の各病院の対応状況を把握しながら情報交流からやっていきたいと思えます。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

病院でのインターネット使用については、全国的に調整がされているニュースをきくようになりました。医療機器との関係で安全であれば、病院にいても IT の使用により、社会とのつながりを切らない生活ができる、情緒的ウェルビーイングが向上することを実感できた今回の試行でした。どんな状況にあっても、子どもの成長発達において、ドキドキわくわくの体験の機会を減らさないように、今後とも工夫して挑戦していきたいと思えます。子どもの笑顔は周りの大人も幸せにします。

以上